公　表　資　料

相模原看護専門学校令和４年度自己点検・自己評価及び学校関係者評価の結果について

本校では、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を行い、評価結果についてお知らせしています。令和４年度の評価結果がまとまりましたので、次のとおり報告します。

令和５年９月１９日

公益財団法人　相模原健康福祉財団
相模原看護専門学校
校　長　　水　澤　晴　代

１　自己点検・自己評価

（１）評価方法等

令和４年度(令和４年４月～５年３月)の学校教育活動について、教職員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価した。

（２）担当者評価

令和５年１月～３月に実施
校長を含む全教職員、事務局長、事務次長

（３）自己点検・自己評価委員会

開催日　令和５年４月１９日、５月１日、６月８日、６月２７日
出席者　校長、看護学科長、学科長補佐、事務局長、事務次長、参与

（４）評価項目

本年度から従来の「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における９カテゴリー・１２５項目を踏まえ、学校独自に設定した１０区分・３０項目により評価を行った。

（５）評価基準

３０項目について、次の４段階で評価
十分に満たしている：４　満たしている：３　　改善の余地がある：２　　改善が必要：１

２　学校関係者評価

（１）評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和４年度自己点検・自己評価結果について事務局から説明し、委員から評価結果に対する意見や提言をいただいた。

（２）学校関係者評価委員会

開催日等　令和５年７月１８日　午後５時～６時４５分　相模原看護専門学校で開催
出席者　評価委員（５名）
阿部　徳子　神奈川県看護協会相模原支部理事、相模原協同病院看護部長
大賀　秀一（副委員長）相模原市医療政策課地域医療対策室長
小林　一裕（委員長）　相模原市病院協会看護部長会長、相模ヶ丘病院看護部長

篠崎　正義　相模原市医師会事務局長
森谷　光俊　相模原市病院協会理事、黒河内病院院長
事務局（５名）
校長、看護学科長、学科長補佐、事務局長、参与

３　評価結果

別紙のとおり

以　上

令和４年度自己点検・自己評価（総括）

令和4（2022）年度　自己点検･自己評価（総括表）

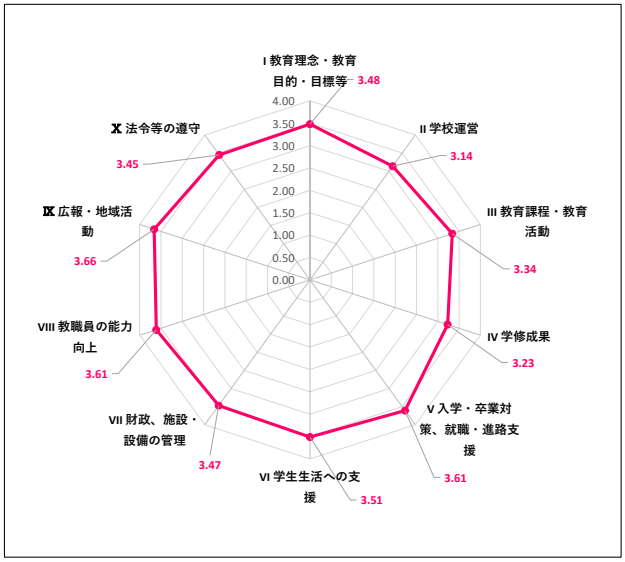
評価項目	平均値
Ⅰ　教育理念･教育目的･目標等	3.48
Ⅱ　学校運営	3.14
Ⅲ　教育課程･教育活動	3.34
Ⅳ　学修成果	3.23
Ⅴ　入学･卒業対策、就職･進路支援	3.61
Ⅵ　学生生活への支援	3.51
Ⅶ　財政、施設･設備の管理	3.47
Ⅷ　教職員の能力向上	3.61
Ⅸ　広報･地域活動	3.66
Ⅹ　法令等の遵守	3.45
平　均	3.45

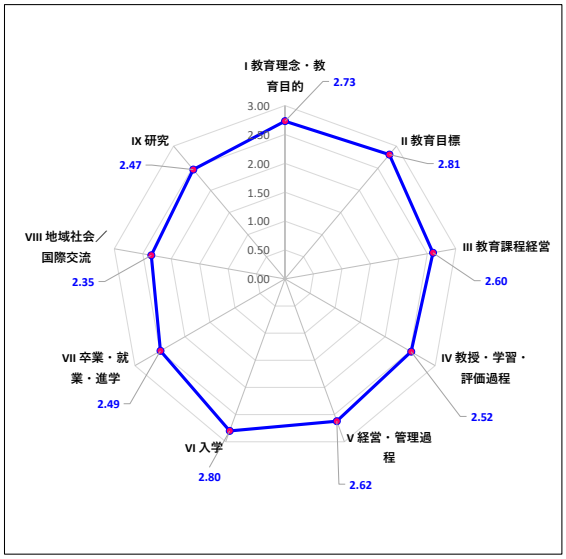
4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要

令和3（2021）年度　自己点検･自己評価（総括表）　参考

評価項目	平均値
Ⅰ　教育理念･教育目的	2.73
Ⅱ　教育目標	2.81
Ⅲ　教育課程経営	2.60
Ⅳ　教授･学習･評価過程	2.52
Ⅴ　経営･管理過程	2.62
Ⅵ　入学	2.80
Ⅶ　卒業･就業･進学	2.49
Ⅷ　地域社会／国際交流	2.35
Ⅸ　研究	2.47
平　均	2.60

3	よく当てはまる
2	大体当てはまる
1	当てはまらない





自己点検・自己評価（総括）

卒業生数は74名、うち16回生は64名（入学者の80.0%）であった。看護師国家試験は74名中71名（95.9%）が合格した（３年度は74名卒業、全員合格）。市内就職率は74名中65名（87.8%）（昨年94.6%）であり、地域に貢献する看護師の育成という本校の理念・目的にかなっている。

一方、教職員による自己評価は、今年度から評価項目、評価基準、評価方法を変更し、評価項目は9区分125項目から10区分30項目へ整理し、評価基準は3段階から4段階へ変更した。また評価方法は、グループでの評価から全教職員個人で評価を行い、変更の経緯と内容については、会議で説明を行った。したがって、前年との比較は困難だが、採点平均は3.45（4点満点：86.3%）となった。３年度は2.60（3点満点：86.7%）であった。

自己評価の内訳は、全区分で3.0（満たしている）以上であるが、最も低い評価となったのは、Ⅱ学校運営であり、「組織全体でチーム力を発揮した取り組みを行っている」が2.50であった。意思決定における情報共有の適時性が課題である。

評価全体に係る学校関係者評価委員からの意見（総括）

〇学校運営におけるチーム力・組織力部分の評価が低く、情報共有や意思決定プロセスの明確化や、教員一人ひとりが教育目標に向けた思いを持ち、学生が効果的に学習できる環境づくりの構築を行っていただきたい。

令和4年度　自己点検・自己評価（評価項目別）

4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要

評価が3.0未満

Ⅰ　教育理念・教育目的・教育目標等		
1	社会のニーズを踏まえた教育理念･目的･目標･ディプロマポリシーが定められているか。	3.68
2	教育理念･目的･目標･ディプロマポリシー･特色などが教職員･学生･保護者等に周知されているか。	3.27
	平　均	3.48

【特記事項・課題】
・本校の特色として「地域の保健医療福祉に貢献できる人材の育成」を掲げており、教育目的を見据えた教育目標、ディプロマポリシーを設定した。
・学習ガイダンスに、教育理念・教育目的・教育目標、及び科目ごとのディプロマポリシーも提示している。入学時オリエンテーションで、学生のみでなく家族への説明も行っている。

【学校関係者評価委員会での意見】
・この項目に対して、教職員の自己評価が低くなっており、今行っている周知方法以外にも検討が必要である。
・教育目標の「地域資源」に関することについて、十数パーセントでも市外に学生が就職しており、学生に目標を浸透させ、この割合を維持させていくことが必要である。

Ⅱ　学校運営		
3	学校の教育理念･目的･目標･ディプロマポリシーを実現するための運営方針を策定しているか。	3.55
4	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	2.50
5	学校運営の評価が適切に行われているか。	3.36
	平　均	3.14

【特記事項・課題】
・校長は、中期経営計画をもとに前年度の評価を踏まえて運営方針を策定している。教職員会議で説明し、意見を募ると共に周知を図っている。
・自己評価について、本年度より評価項目、方法を変更した。全職員に内容・方法の周知を図り、４段階評価とし、個人で評価を行った。
・教員会議等で随時課題の検討は行っているが、教職員間でのタイムリーな情報共有や意思決定のための協議が十分できていないことが課題である。
・校内ネットワークを効果的に利用し、情報共有を図る。

【学校関係者評価委員会での意見】
・運営方針や適切な評価について、評価する側の教職員の基準や点数にばらつきがあるように思われる。評価方法について研修を行うなど、評価の目線を揃える必要がある。
・チーム力の取組への評価が低い点については、教職員一人ひとりが、目指すべき姿やチームを作り上げていくことを自覚して、組織力を向上させていくことが大切である。,

Ⅲ　教育課程・教育活動		
6	教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3.27
7	教育内容は、教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーと一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	3.41
8	体系的なカリキュラム運営が行われているか。	3.27
9	評価について公平性・妥当性が保たれているか。	3.09
10	実習時の安全体制が整っているか。	3.64
	平　均	3.34

【特記事項・課題】
・卒業時の到達状況評価は、卒業生数、国家試験合格率、卒業時到達目標評価などで行っている。係や学年の教員間で検討は行っているが、全体としての課題と対策について共有することが必要である。
・授業内容については、教育目標を達成できるように学習ガイダンスや実習要綱の見直しを毎年行っている。新カリキュラムで目指している地域連携や臨床判断能力の育成に向けて各領域で検討が進んでいる。
・実習評価については、不合格の学生に対しその理由を明確にして再実習計画を立案し、会議で検討した。しかし、教員間で評価基準の認識が異なっていることもあった。評価方法や指導方法について共有が図れるよう更に検討していくことが課題である。
・学校内での感染予防対策は、各教員が継続して意識付けを行った。また実習時の安全体制は、実習調整者を中心に各実習施設と密に連絡を取り、実施している。コロナ禍においても、実習施設の協力もあり、ほとんどの実習を病院等の施設で行うことができた。

【学校関係者評価委員会での意見】
・教員間の評価のばらつきが課題となっているが、情報共有や会議の重要性を教員に浸透させる必要がある。
・教員が多忙の中で、会議の出席が困難とのことだが、オンラインを活用することで、解決できるのではないか。

Ⅳ　学修成果		
11	学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。	3.32
12	国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	3.14
13	退学率の低減を図っているか。	3.23
	平　均	3.23

【特記事項・課題】
・学生の学力面のみでなく、生活面、精神面に対しても、学年のチューターが丁寧に対応している。しかし学年の差もあるが、未修了科目を持つ学生が、1/4を超える学年もある。
・国家試験合格率は95.9%（全国平均95.5%）。試験対策は，１年次から意識して働きかけているものの、学習の積み重ねになっていない現状がある。
・令和4年度の退学者は7名（2.9%）。うち4名が進路変更である。成績低迷や学習意欲の低下、経済的理由などが根底にある。欠席の続く学生へは早期に対応し、保証人とも連携を取りながら、学習を支援していく。
・生活指導も含めた学習指導方法の更なる検討が必要である。

【学校関係者評価委員会での意見】
・退学者・未修了者対策について、これまで以上に丁寧な対応で、一人でも多くの学生が修了できるよう努力してほしい。

Ⅴ　入学・卒業対策、就職・進路支援		
14	入学応募者確保に努めているか。	3.64
15	就職・進路支援に取り組んでいるか。	3.68
16	卒業生への支援を行っているか。	3.50
	平　均	3.61

【特記事項・課題】
・令和5年度入学者入試のの入学応募者は200名であった。少子化や大学志向の影響もあり、前年の15%減となったが、合格者数の調整により、定員を充足した入学者の確保ができた。また、ＰＲ活動として、高校への訪問説明会は22回行い、参加者はのべ234名、オープンキャンパスは、14回開催し参加者は、延べ692名であった。一日看護体験では、参加希望者が全員参加し、同じ演習が体験できるよう、午前・午後と2日間にわたり4回同じ演習を実施した。
・高校説明会では、参加人数のばらつきも大きく、参加意欲も差が大きい。説明会への参加が、どの程度入学応募につながっているのか、把握していくことが課題である。
・進路指導は各学年でチューター制をとり、1年次から進路を見据えてインターンシップ等促し、参加している学生が多い。
・既卒者に関しては、離職や再就業に関しての支援が課題である。同窓会の活性化も含め検討していく。

【学校関係者評価委員会での意見】
・少子化の中で、定員を確保していることは評価できる。

Ⅵ　学生生活への支援		
17	健康管理面、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか。	3.59
18	学生の自主的な活動を支援しているか。	3.36
19	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3.59
20	学生の就学ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.50
	平　均	3.51

【特記事項・課題】
・学習のみでなく健康面、精神面から経済面、生活指導まで、学年のチューターがこまめに相談に応じている。
・精神面の支援が更に必要な学生へは、カウンセラー利用の紹介も行っている。
・学生自治会とは、年に1回意見交換会を設けており、学生の要望に対して対応を行っている。実現が困難なものへは丁寧に回答している。

Ⅶ　財政、施設・設備の管理		
21	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	3.23
22	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	3.50
23	施設・設備及び教材が整い、安全・安心が確保されているか。	3.55
24	学生の自主的な学修の場を確保しているか。	3.59
	平　均	3.47

【特記事項・課題】
・中期経営計画に則り、毎年年間事業計画を策定・実施し、教職員会議で報告している。
・防災訓練は年2回行い、自転車事故防止講習も実施している。
・学生が自己学習するための図書室については、毎年図書を追加購入し、古いものは除籍することで、使いやすく工夫している。
・経年劣化に伴う空調などの整備は、今後の課題である。

【学校関係者評価委員会での意見】
・昨今、自転車事故も増加しており、自転車事故防止研修は大いに評価できる。
・施設の経年劣化も進んでいることから、計画的な修繕を進めていく必要がある。

Ⅷ　教職員の能力向上		
25	教員は、看護教育力向上に努めているか。	3.73
26	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	3.50
	平　均	3.61

【特記事項・課題】
・学会や研修に参加するための予算や体制は整えており、教員は全員が積極的に参加している。報告書の回覧は行っているが、学習会で共有するなど伝達方法は課題である。
・研究授業は年２回、外部講師を招いて行っている。実施者は順番で行い、研究授業の時期も決まっていたため、授業担当者の講義で行ってきたが、希望者を募るなど実施方法は検討の必要がある。

IX　広報・地域活動		
27	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	3.64
28	地域社会の一員として、貢献しているか。	3.68
	平　均	3.66

【特記事項・課題】
・前年度の評価を踏まえ、オープンキャンパスの日時・回数、開催内容を計画している。
・コロナ禍による来校者減少も考慮し、ホームページ内でオンラインオープンキャンパスを公開し、模擬授業、施設紹介も取り入れた。
・白優祭（学校祭）は、相武台地区のふるさとまつりと同日開催とし、671名（令和元年度280名）の参加があり盛況であった。
・相模原市、市の病院協会と連携し、再就業支援に向けての話合いや技術研修会の開催に協力している。
・市内の施設で行われる就業者の技術演習のために、モデル人形の貸し出しを行っている。
・ホームページ以外の広報活動についても、インスタグラムやツイッターなどの活用も検討する。

【学校関係者評価委員会での意見】
・地域や関係団体との連携も密にしており、今後も継続を期待する。

X　法令等の遵守		
29	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.64
30	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	3.27
	平　均	3.45

【特記事項・課題】
・法令や専修学校基準を遵守し、改正された法律に対しても順次対応している。
・学校におけるハラスメントについては、学生必携に記載し、説明を行っている。また、申し出があった際には、管理者が情報を収集し、当該者の意見も確認したうえで、対応している。第三者委員会の設置については、検討課題である。

【学校関係者評価委員会での意見】
・コンプライアンス違反・ハラスメント等の対応について、不測の事態に備えて、対策を進めてほしい。